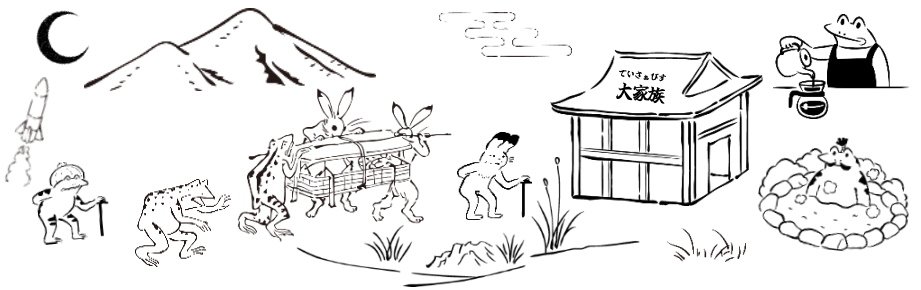


大家族

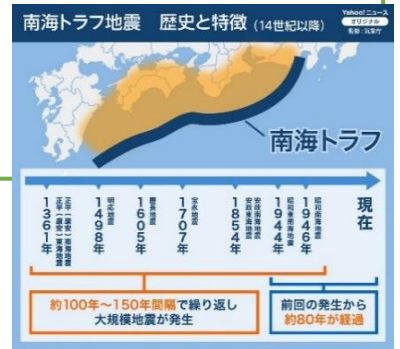
瓦版

令和6年
3月号



災害時の 対策について

2024年4月から、介護事業者におけるBCP（事業継続計画）の策定が義務化されました。義務化の理由としては、やはり以前から言われている南海トラフ地震の発生率が高まっていることが挙げられるでしょう。政府の地震調査委員会は2024年1月、南海トラフ周辺で今後M8.0～9.0の巨大地震が発生する確率を、10年以内では「30%程度」、30年以内では「70～80%程度」、50年以内では「90%程度もしくはそれ以上」として発表しました。その被害は、四国や近畿、東海などの広域に及び、東日本大震災を大きく上回ると想定しています。



大家族といえども、BCPの作成はもちろん、実際に被災した場合に必要な防災グッズを準備しております。まずは雨水タンク（1000ℓ）。もしもの断水時に困るのがトイレをはじめとする日用水です。1回に使うトイレの流し水は少なくとも約5ℓ。雨水タンクに1000ℓの貯水があれば、トイレ200回分の流し水として使用することができます。



また火災が発生した際にも消火用水として使用できます。災害時には「トイレの回数を減らすために水分をがまんした」「泥水で手を洗った」といった悲惨な状況を耳にします。電気がつかない、水が出ない、お湯が出ない…こんな状況がいつものように使えるようになるまでの時間はどれくらいなのか知っていますか？驚いたことにこんなに時間がかかるのです。雨水タンクは雨のたびに水が補充されるので、普段使いしながらもしもの時に備えることができます。

阪神淡路大震災	東日本大震災
電気：6日	電気：95日
水道：90日	水道：90日
ガス：85日	ガス：55日

また、災害時に必要なのが電気です。そこでインバーター式の発電機を準備いたしました。万が一、事業所が避難所となった場合、夜間に困るのが照明です。手元を照らせる電池式ランタンも大事ですが、WCや建物内の出入り口など広範囲を照らしたい場合は投光器などの照明が必要です。情報収集や連絡手段として必須のスマートフォンなどの充電にも役立ちます。熱中症対策のための扇風機や冷風機、冷蔵庫や冷凍庫にて飲み水を冷やしたり、氷を作る必要性もあるかもしれません。季節によっては寒さ対策も必要です。エアコンだけでなく、石油ファンヒーターやガス暖房機の利用にも電気が必要で、停電するとそれらの機器が使えなくなります。こういった状況でも普段通り電気を使えることはとても大きな心の支えになります。もしもの時でも、利用者様が安心して過ごしていただけるような環境づくりに努めてまいります。



今月の大家族、空いていますよ!!

今月の
空き状況

2024
3月

月	火	水	木	金	土
○	○	○	○	◎	○

○…空いています △…要相談です ×…定員いっぱいです

お問い合わせ先



デイサービスセンター「大家族」
☎ 059-346-8600

センター長：前川
生活相談員：大杉・柴田
清水・竹尾